

帰山奉告文

勸請し奉る 南無平等大慧一乘妙法蓮華經 南無久遠実成大恩教主釈迦牟尼佛 南無末法之大導師高祖日蓮大菩薩 護世護法之天神地祇 日本国内大小之神祇 法華經中守護之諸天善神 別しては祈禱本尊行者擁護南無鬼子母大善神十羅刹女 興覚寺にてご守護を賜る諸天善神 宗門歴代之先師 殊には 経王瓶水無漏相承修法之先師 興覚寺第二十六世 身延山大荒行堂正傳師高木日亮上人、興覚寺開山上人以来七百十八年如法弘通の先師等、証知照鑑の御寶前に於て沙門我聞院日諦孝元、恭しく一乘円頓の法筵を張り、以て令和七年度日蓮宗大荒行堂初行成満帰山の式典に擬し奉る。

小生、今この興覚寺の歴史を背負い、修徒として住職を扶けその布教責務の重大さに日々苦悶するも、「令和の世に合った興覚寺の布教を」と今の住職に託され、仏様日蓮大聖人のお導きを頂き、檀信徒各位の協力のもと、「新型の興覚寺へモデルチェンジ」する事の基礎構築と、自己の研鑽と整備された興覚寺にて修法布教する決意を示す為、今度日蓮宗大荒行堂に身を投じる。

今、思い返すに 昨年十一月一日 日蓮宗大荒行堂に、壺百日成満を目ざし、身と命を捧げ、決意を以て入行す。以来、暇と眠りを絶ち、耐え難きを耐え、忍び難きを忍ぶ自己の罪障消滅の法を修し、午前三時からの水行は、未だ夜の気配暗暗と深けれども、水盤に写る月影を拝み、日に七度の水行にて六根を浄め、唱える水行肝文で闇を照らし、頭上に砕け散る水の雫は空の星と入り混じり、朝夕の白粥をすすっては、すべてに於いて常に精進し、読経三昧に入っては喉が破れるほどの経巻を唱えて心を清浄に、「佛の教えの根本は法華経を信じきる」の訓戒を守り、過酷な日課を修練し、遂に初行

木剣加持祈祷の秘密秘伝の奥義を感得する事が出来たり。

しかし行中は、目を開けているのに寝ている感覚で、夢か現実か判断つかず幻聴幻覚に悩まされ、身体は読経中の正座で足の甲がめくれ、そこから入ったバイ菌が身体をむしばむ。白粥だけの栄養状態で基礎免疫を失い、身全体が菌にむしばまれ、ブヨブヨにむくむ。恥をかいてもいい。もう帰りたい。行をやめたレッテルを貼られてもいい。ぐっすり眠りたい。死の淵を彷徨うのはもう勘弁だ。究極いつその事この人生をもう終わってもいい。その方が楽だ。

そんな貧弱な懈怠心が自分を襲う。

しかし身、口、心で唱える御題目は、興覚寺のご本尊様を睨へ映し出し、「どうかご無事で」と送り出してくれた檀信徒の皆様、今生の別れのように涙で離れた母の顔と寺族の顔、そして百日間、毎朝6時に無事を祈り本堂前で大病をした身なのに、ひたすら水行をする住職が浮かびあがる。

涙が頬をつたい、目の前が霞む。しかしその涙の温かきで生きている事に気づかされる。「お題目さえあれば、なんとかなる」と。

本日此に關係各聖の御臨席の下、随喜法楽、合掌し大荒行壺百日成満の功德力を以て、秘伝修法加持を修し、無事帰山の奉告式典を営み、以て佛様日蓮大聖人の溢れる御恩に対し、深く感謝するとともに、本日以後日蓮大聖人の願いに基づいて、今回感得した祈祷相承を縁ある人、又縁無き人にも与え、社会の福祉に寄与し、この度の大荒行成満に当り、堺のお題目道場興覚寺を支える檀信徒各家の息災延命所願成就を祈り願う事は勿論、ご先祖への敬意と供養の本分を尽くし、仏様日蓮大聖人の御慈悲に報いる感謝の誠を捧げ奉る。

伏して願わくは この道場にある者が、この美しいご本尊を目の

前に、生きる喜びをかみしめ、先祖を祀れる有り難さを知り、信仰によって家の安全が保たれている事、その感謝の言葉をお題目に代え、欲を少なくして足りている事を知り、日々の勤行を怠らない事を願う奉る。

沙門某、修法するところ靈驗顕著にして、お題目の布教に邁進し、生かされる不思議の意味はお題目をするという事に、人々が気づき、理解することができ得ますよう、伏して努力し奉る者也。

南無妙法蓮華經

維時 令和八年二月十五日

興覚寺修徒

我聞院日諦孝元

敬白

本日お集まりの皆様、お釈迦様や日蓮大聖人はどこか遠くに居られるわけではありません。今回体験した事を申し上げます。

私たちがお題目を一心に信じようと努め、心からお題目を唱えている所は、いずれも仏様がいらっしやる場所なのです。

今回の荒行堂のように、つらくとも、うまくいかなくとも、生命の維持が困難であっても、「お題目を心に持ち、生きようとしている」所が、実は仏様が教えを説いている「お説法の場所」なのです。

つまり仏様のおられる本当の世界とは、何処か別の場所や過去や未来にあるのでは無く、お題目が広まり、お題目の教えが行われている、「この今の世界以外にはない」のです。

日蓮大聖人曰く「くれぐれもお題目の信心肝要なり」

南無妙法蓮華經